



令和7年度「大学の世界展開力強化事業～グローバル・サウスの国々との大学間交流形成支援～」に採択



文部科学省が公募する令和7年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業」～グローバル・サウスの国々との大学間交流形成支援～に、本学が事業責任大学となり申請した「インテリジェント・マニファクチャリングにおける日印マイクロクレデンシャルを中心とした学生・社会人に対するシームレスな技術者養成プログラム」が採択されました。

本学としては、令和4年度に採択された「グローバルJDPプラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成」に続く2件目の採択であり、今回もインド工科大学グワハチ校 (IITG) をパートナー校としています。

本取組において、本学はIITGと共同で設計するマイクロクレデンシャル^(注)を核とした、学生・社会人対応型の技術者育成プログラム(Intelligent Manufacturing Program: IMP)を構築するほか、全学的な学生を対象に、AI・情報科学教育の素養を基盤としながら、グローバル・サウスの学生との対話や地域課題の理解を通じ、国際的な共創力を高める交流プログラム(AI4GLOCAL Ideathon Program)を実施します。

2025年12月には、これらのプログラム開始にあたり、IITGよりDevendra Jalihal学長一行を迎え、新規プログラム立ち上げにかかる協力趣意書及び基本合意書の締結を行いました。また、IITG代表団は「岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2025」の一環として開催された学術セッションでの講演を行いました。さらに、3名のIITG学生が来日し、AI4GLOCAL Ideathon Programの試行版に参加しました。

さらに今回の取組においては、日印の学生同士の交流や、インド人留学生の東海地域への定着を促進するため、学生・修了生が参加するコミュニティづくりも計画しています。グローバル推進機構では、これらの取組を通じ、国際共同教育・研究のさらなる発展と、成果の地域還元を目指します。

(注) マイクロクレデンシャル: 特定の領域を比較的短時間で学び、その学修成果を評価して証明する教育制度



マレーシア国民大学及びマラヤ大学(マレーシア)、アンダラス大学(インドネシア)を訪問

9月8日～15日



2025年9月8日から15日にかけて、マレーシア国民大学(UKM)、マラヤ大学及びアンダラス大学を訪問しました。

UKMは、ジョイント・ディグリープログラム(JDP)連携大学です。今回、新たに学長に着任したSufian Jusoh学長を表敬訪問し、学生間交流・学術連携、JDPの拡大について意見交換を行いました。また、医学部附属病院において、医療現場の視察、医学部学生・医師・スタッフとの交流の可能性について意見交換を行いました。

マラヤ大学においては、今後の両大学間における教育・研究の連携を一層推進するため、協力意向書(Letter of Intent: Lol)の署名式が執り行われました。また、共同研究の推進に向けた協議を行うとともに、学生交流や学術交流の可能性について、Hasniza Binti Zaman Huri 副学長(学術・国際担当)らと意見交換を行いました。

さらに、在マレーシア日本国大使館を訪問し、四方 敬之 特命全権大使はじめ、JDPガイドライン作成に携わり、本学のJDP設置に支援いただいた北岡 龍也 参事官、岐阜県庁から出向中の安江 俊二 三等書記官らと、マレーシアにおける大学の展開について懇談しました。

マレーシアに引き続き、インドネシアのアンダラス大学も訪問しました。アンダラス大学は、本学との大学間学術交流協定校の中で最も長い歴史を持っています。同大学において、Efa Yonnedi 学長、Syukri Arief 副学長らとの懇談を実施し、翌日に行われた創立記念行事にて、吉田学長がこれまでの医学分野における貢献・業績や今後の展望、岐阜大学および東海国立大学機構の特色について、アンダラス大学教職員及び学生に向けた基調講演を行いました。

その後、岐阜大学インドネシア同窓会のメンバー約30名との懇談を実施し、岐阜大学での生活の思い出や今後の交流の可能性について意見交換を行いました。

今回の訪問を通じて、両国との教育・研究連携のさらなる深化が期待されます。



2025年12月5日に、岐阜大学 糖鎖生命コア研究所 (iGCORE) ほか学内各会場において、「岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2025」を開催しました。

東海国立大学機構主催のメインシンポジウムには、対面及びオンラインで95名が参加しました。冒頭、松尾 清一 機構長と吉田 和弘 大学総括理事・副機構長(岐阜大学長)が開会挨拶を行い、続いて文部科学省 高等教育局の古屋 圭織 専門官より「留学生Mobilityの推進及び大学の国際化について」と題した基調講演がありました。その後、IITGのDevendra Jalihal 学長による活動紹介に続き、筑波大学、名古屋大学のジョイント・ディグリープログラム (JDP) 参加学生及び岐阜大学JDP修了生1名から寄せられたメッセージ動画が放映されました。パネルディスカッションでは、「グローバルサウス諸国との学生交流」をテーマに、名古屋大学、筑波大学、山口大学及び岐阜大学の代表者が登壇し、グローバルサウス諸国の大学と教育交流を行う意義や課題、今後の展望について活発な議論が交わされました。

午後から行われた産官学金連携セッションは「持続可能な社会への転換を進める企業活動」をテーマとして開催され、対面及びオンラインで114名(内企業からも41名)が参加しました。第一部では、岐阜大学のJDPコンソーシアムの活動紹介のほか、コンソーシアム参加企業による竹を中心とするバイオマス資源利用に関する取組紹介が行われました。第二部は「ネイチャーポジティブな農業・バイオマス活用」と題し、東海農政局及びキリンホールディングス株式会社による事例紹介及び意見交換が行われました。

当日は、メイン会場であるiGCOREのほか、図書館エントランスホールでも地元企業や文化紹介のブース展示が開催され、海外からの来賓も含めた多くの来場者が訪れるなど、終日に渡り充実したシンポジウムとなりました。

今後ともシンポジウム開催等の活動を通じ、JDPを中軸とした地域の国際化推進に努めてまいります。



海外への留学

海外留学フェア2025秋

11月19日

2025年11月19日、グローバル推進機構主催『海外留学フェア2025秋』を開催しました。本フェアは、留学に必要とされる語学力や岐阜大学における留学プログラムに関する情報提供及び留学の促進を目的として、平成24年度から開催しています。

本フェアは、異徹グローバル推進機構留学推進副部門長の挨拶から始まりました。

初めに、留学支援係から本学の留学プログラムや支援制度に関する説明があり、続いて、今年度の短期研修プログラムにより留学した学生から、留学経験に基づく発表を行いました。約10分間の休憩後は、交換留学、学部等の短期派遣プログラム及びトビタテ!留学JAPANを利用して留学した学生が発表を行いました。プログラムを経て、留学前と比べて、英語を使う自信がついたこと、行動力やコミュニケーション能力が向上したこと、将来は海外で働きたいという夢が出来たこと等、留学を通じて成長した姿が伺えました。

また、各発表者の発表後には、参加者だけでなく留学経験者からも質問が寄せられる等、留学への関心の高さが感じられました。



海外で学ぶ



自然科学技術研究科
清水 僚馬

GU-IITG
GEPプログラム



インドへの研究留学

私はグローバルエキスパートプログラム (GEP) の一環として、インド工科大学グワハティ校 (IITG) に留学しました。自身の研究テーマに関する知見を広げるだけでなく、近年急激な成長を遂げているインドという国を肌で感じたいと考えたことが、留学を決意した理由です。私にとって初めての海外渡航で不安もありましたが、国際総務係の方や現地の方々の温かいサポートのおかげで、充実した留学生活を送ることができました。

この経験を通じ、これまでの価値観に囚われず「郷に入っては郷に従う」ことの重要性を深く体感しました。



2025年8月から12月にかけて、第6回目となるCollaborative Video Making Program (CVMP) 2025を開催しました。本プログラムでは、8月から約5か月間にわたり、本学(5名)、インド工科大学グワハティ校(IITG・3名)及びマレーシア国民大学(UKM・3名)の学生が3グループに分かれ動画の共同制作を行いました。各グループは、オーストラリアのcreative agencyプロデューサーからスマートフォンでの動画撮影技術の指導を受けながら、「学生生活を比べて分かるユニークポイント」をテーマに動画作品を作成しました。



12月11日には、学生が制作した動画の発表の場としてFinal CompetitionがZoom WebinarとOKB岐阜大学プラザ1階プレゼンテーションエリアのハイブリッド開催にて行われ、動画作品の講評を行いました。

Final Competitionの最後には、特別審査員による採点及び視聴者投票が行われ、グループ3の作品「Our Universities, Our Stories」が最優秀作品に決定しました。本プログラムで制作された動画はGU-GLOCAL Channelから視聴できます。

これらの動画作品が、各大学の学生の海外への興味や関心のきっかけになることが期待されます。

本学への留学

Winter School Program 2025

12月3日～18日

グローバル推進機構では、短期受入プログラムのウィンタースクールを2025年12月3日～18日にかけて開催し、第9回目となる本年は、本学とジョイント・ディグリープログラム(JDP)を設置しているインド工科大学グワハティ校(IITG)から7名、マレーシア国民大学(UKM)から2名の学生が来学しました。

本年度は「日本の食品を科学する」というテーマにて開催し、2週間という短い期間に、参加学生らは企業や日本学生との交流、研究活動、日本文化体験等のプログラムを行いました。

企業との交流は、岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウムへの参加、企業理解の特別講義や企業訪問を行いました。日本学生との交流は、岐阜大学の学生や岐阜市内の高校生との交流会を実施しました。研究活動については、茶葉を分析する実験や日本の食文化に関する実験を行いました。そして、日本文化の体験としては、日本語授業受講や十二単のイベントへの参加、八百津町を訪問し、醸造見学や茶園体験をしました。



そして、最終日の12月18日には、本プログラムをとおして学んだことを発表する最終報告会・閉校式を行いました。

※本事業は大学の世界展開力強化事業の支援を受け実施しています。

日本語・日本文化教育センター(日文センター)の取組

十二単の着装と体験

12月10日

2025年12月10日、日本語・日本文化教育センターは、日本文化ワークショップ「十二単の着装と体験 ー日本の民族衣装ー」を開催しました。

当日は、インド工科大学グワハティ校とマレーシア国民大学から受け入れているウィンタースクール参加学生や、日本語・日本文化教育センター所属の日本語・日本文化研修コースの留学生、社会文化プログラムの留学生、本学に在籍する留学生や日本人学生及び教職員など、約50名が参加しました。

ワークショップでは、和服の着付けを専門とする伊藤慶子(豊装慶)氏他4名の講師陣による指導が行われました。箏の生演奏の披露もあり、荘厳で優美な雰囲気の中、参加者たちに十二単の魅力が伝えられました。



日本語・日本文化教育センターの土谷教授からは、日本語・英語両言語で日本の歴史や十二単の基礎知識の説明がありました。その後、中国出身のシユク・キョウバイさんが着付けモデルとなり、小袖・長袴の準備を整えた後、単、五衣、表着、唐衣、裳の順に着付けを行いました。参加者からは「十二単は毎日着ていたのか」「トイレはどうしたのか」等の質問が寄せられ、講師が丁寧に回答しました。

着付けの実演後には、希望者による十二単の試着体験も行われ、多くの学生がその重みを体感しながら、写真撮影のひとつきを過ごしました。

参加者からは「日本の伝統文化の奥深さや美しさを堪能することができた」との感想が寄せられ、日本文化教育の充実につながる有意義な機会となりました。

岐阜大学で学ぶ



連合農学研究科
クマリ サプナ



インド

日本での留学経験: 学び、つながり、そして成長

私はこれまでに2度日本を訪れていますが、いずれも私にとって素晴らしく、実り多い経験となりました。最初の来日は、IITGと岐阜大学によるジョイント・ディグリープログラムへの参加がきっかけでした。このプログラムを通じて、日本の先進的な研究環境、規律ある勤勉な姿勢、そして協調を重んじる学術文化に触れることができました。また、日本の友人たちと多くの美しい場所を訪れ、忘れがたい思い出をつくることもできました。こうした経験が、日本でより高度な学びを追求したいという私の強い動機となりました。現在、私は2度目の来日を果たし、文部科学省奨学生として岐阜大学の博士課程で学んでいます。来日当初は言語の壁に苦労しましたが、日本の皆さんはとても親切で、困った際にはいつも温かく助けてくださいました。留学支援室の斡旋による家庭訪問や文化交流イベントなどを通じて、多くの方々と交流する機会に恵まれ、日本社会とのつながりをより深く感じられるようになりました。特に、再び日本で学ぶ機会を与えてくださり、温かく支えていただける素晴らしい研究環境を整えてくださっている指導教員の今泉鉄平先生に、心より感謝申し上げます。今泉先生のおかげで、日本での生活にスムーズに適應することができ、自信を持って学術の道を歩み続けることができています。



愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催

11月26日

2025年11月26日、岐阜大学全学共通教育講義棟において、2025年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催し、企業8社13名と留学生12カ国22名（朝日大学4名含む）が参加しました。

今年度で8回目となる本ワークショップは、愛岐留学生就職支援コンソーシアムに参画している本学、岐阜県、岐阜県経営者協会、日本貿易振興機構（JETRO）岐阜貿易情報センターの県内4機関が共同で開催し、留学生と県内企業に就職マッチング機会を提供することを目的としています。

ワークショップは2部構成で実施しました。今年度は内容を大きく刷新し、留学生と企業の双方向交流（グループトーク）を実施しました。このグループトークでは、テーマとして「留学生と企業の"リアル"を知る」を掲げ、留学生と企業担当者からなる少人数のグループを作り、具体的な質問を通じて率直な声を共有しました。そして働く側（留学生）と雇う側（企業）の視点から意見を交わし、外国人材がより活躍できる社会のあり方を共に考えました。

第2部「企業と留学生との個別交流」では、例年同様、留学生が参加企業のブースを訪ねて企業担当者と直接交流を行いました。参加した留学生からは「企業の方から、今後日本で就職活動するうえで役立つ情報を得られた。」「第1部のグループトーク、第2部の個別交流共に時間が短くて残念。もっと企業の方と話したかった。」などの感想が寄せられ、大変好評でした。

企業担当者からは「留学生の方の不安や期待など生の声を聞く事ができ、留学生採用に向けて参考になった。」「想像以上に学生の就労意欲や長期勤務への意識の高さを感じられた。」「来年も参加したい。」と次へとつながるコメントも寄せられました。

今後も留学生と県内企業の架け橋となり、グローバル人材が地域でより活躍できる環境づくりを全力で進めていきます。



マレーシア国民大学 学生センター訪問団が本学を訪問

1月7日



2026年1月7日、岐阜大学はマレーシア国民大学（UKM）学生センターからNorinsan Kamil Othman 副学長（学生支援・同窓会）をはじめ6名の訪問団を迎えました。

学長表敬では、2025年9月に吉田 和弘 学長がUKMを訪問し、Sufian Jusoh 学長との面談や理工学部の視察、UKMホスピタル訪問を通じて大学間の学生・研究者や教職員の交流拡大について意見交換を行ったことが紹介され（p.1記事参照）、両大学間の更なる協力強化への期待が述べられました。

その後、リム リーフ副学長（国際・多様性・ジェンダー（副）・図書館（副））より岐阜大学の概要説明が行われ、続いて教育推進・学生支援機構の高橋 周平 副機構長が同機構の取り組みを紹介しました。さらに、航空宇宙生産技術開発センターを視察し、最先端の研究設備を見学しました。

今回の交流を通じ、両大学の学生・教職員間の連携が一層深まり、ジョイント・ディグリープログラムを含む国際交流のさらなる発展が期待されます。



チェンマイ大学学長らが本学を訪問

10月9日



2025年10月9日、タイのチェンマイ大学よりPongruk Sribanditmongkol学長ら6名が本学を訪問しました。

本学とチェンマイ大学との友好関係は、1980年代に本学医学部との交流を契機として始まり、2003年には両大学間で学術交流協定を締結しました。

その後も双方の大学への訪問など交流が続いており、今回の訪問では、大学間学術交流協定の更新に関する署名式が執り行われました。

式典では、吉田学長より、両大学の連携強化の機会を得られたことへの感謝が述べられ、今後は医学・工学・農学など幅広い分野で協力を図り、一層の交流を進めていくことが話し合われました。

今回の協定更新により、岐阜大学とチェンマイ大学は学生交流・学術交流をさらに深め、教育・研究交流を推進してまいります。



先輩からのメッセージ

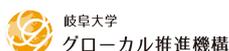
成長とは、献身によって蒔かれ、卓越性によって育まれた種の収穫である

岐阜大学での学びは、その後の私の成長を力強く支えてくれる肥沃な土壌となりました。博士号取得後、私はエジプトのアレクサンドリア大学において、クロマトグラフィー分析部門の技術マネージャーを務めました。岐阜大学で培った専門知識を生かし、わずか2年で同部門の予算を4倍にまで拡大することに貢献しました。現在は、岐阜大学の共同特別研究員として研究活動に携わっています。私の視野を大きく広げてくれたこの大学に再び戻り、さらなる技術の研鑽を積むとともに、科学の未来に寄与できることを大変光栄に思っています。



エルノビ ハサン マハムド
アブドサラム モハメド

岐阜大学大学院工学研究科特別研究員
（工学研究科工学専攻 2023年修了）



編集・発行：岐阜大学グローバル推進機構 E-mail：kokusaik@t.gifu-u.ac.jp
事務局：岐阜大学学務部国際事業課国際総務室（国際交流に関すること）
TEL:058-293-3351 E-mail：int_exch@t.gifu-u.ac.jp
岐阜大学学務部国際事業課留学支援室（留学に関すること）
TEL:058-293-2142 E-mail：direcent@t.gifu-u.ac.jp



岐阜大学国際交流 NEWS Letter

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/data/newsletter/index.html>



<https://www.youtube.com/channel/UCMJkz04fsxzo3ogeNHC-PA>

